

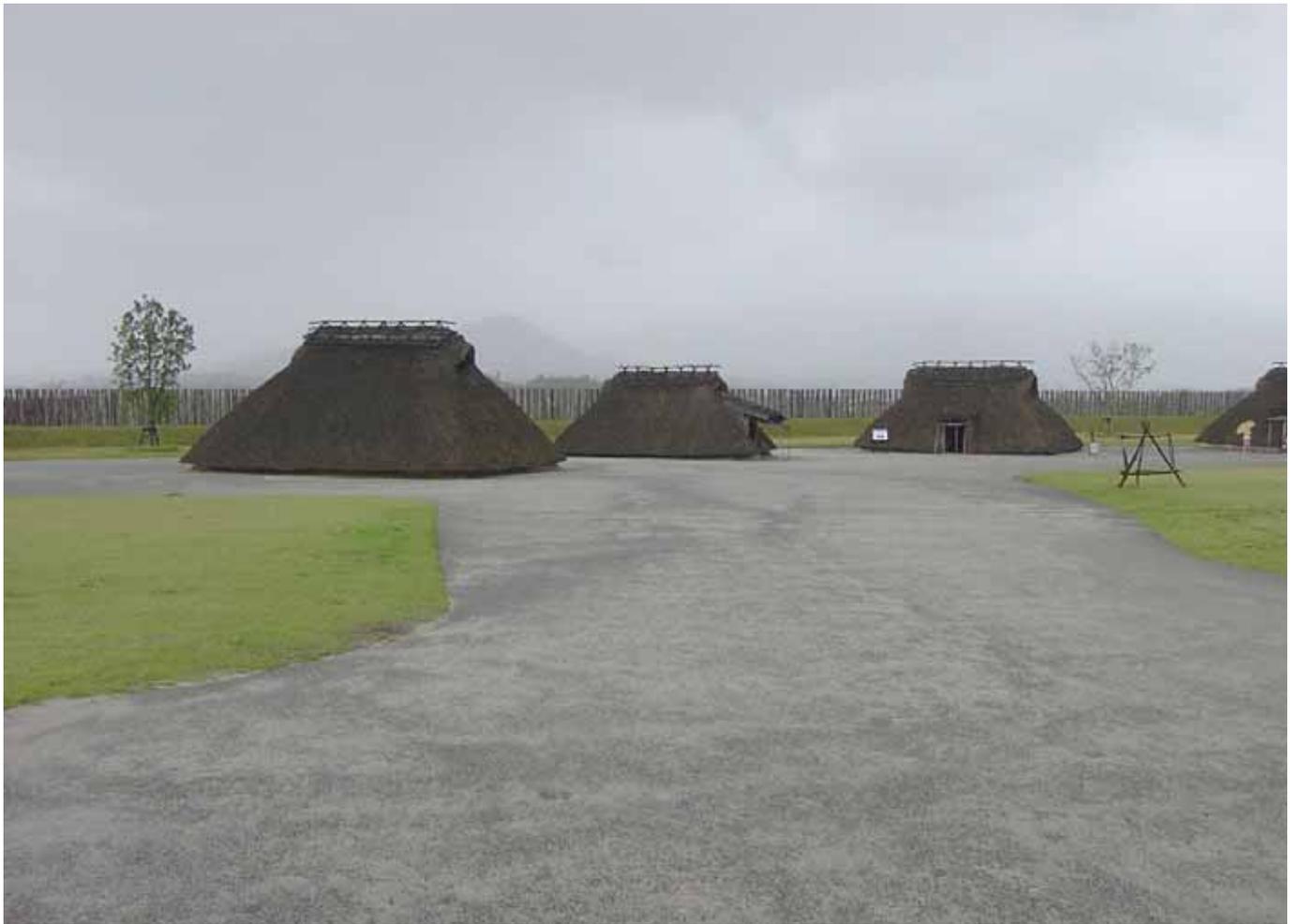




みなみないかく
南内郭

吉野ヶ里の2つの中心区域のうち、南側にあるものを南内郭と呼んでいます。壕と柵で厳重に囲まれ、中には物見やぐらも設けられています。こうした特別の空間であることから吉野ヶ里の指導者たちの生活の場であると考えられています。

〈発掘当時の写真〉
〈出土品〉 鉄器







主祭殿

吉野ヶ里のまつりごとを司る最重要施設です。ここでは指導者たちが重要な事柄を話し合ったり、最高司祭者が祖先の靈に祈りを捧げる儀式などが執り行われていたようです。発掘調査の成果や古代中国の事例などを参考に高さ16.5mで復元しています。



〈遺構図〉



〈復元図〉





甕棺墓列

甕棺とは棺おけのことで、弥生時代の北部九州だけに見られる特徴的なものです。吉野ヶ里では、長さ600mにもわたって2列に埋葬された甕棺墓列をはじめ、丘陵の各所にたくさんの墓地が設けられています。



〈発掘当時の写真〉



〈遺構図〉



